「Who is Bad」

（前編）

―２稿―

2024/12/31

米俵

〈人物表〉

佐伯　美波　（21）　大学生
新木　くるみ　（21）　大学生
大橋　凌　（24）　会社員

〈ログライン〉

（前編）・くるみから彼氏（凌）を奪いたい美波は、凌がくるみをふる計画を立てて実行させ、フラれたくるみを見て笑う。

〈ねらい〉

・二面性を書く

1.　美波の家・室内（夜）

シンプルなインテリア。

佐伯美波（21）、スマホを見ている。

SNSの投稿を見て、悔しそうに自分の太ももをゆっくりと強くひっかく。

美波の太ももがミミズ腫れのように赤くふくれる。

2.　カフェ・店内（夜）

混みあっている店内。

窓からはクリスマスのイルミネーションが見える。

美波と新木くるみ（21）、向かい合って座っている。くるみは派手めのワンピース、美波は落ち着いたパンツファッション。テーブルには、ラテアートの描かれたカフェラテが置かれている。

美波、ラテアートをちゅうちょなく、かき混ぜる。

ラテアートが不気味に崩れていく。

くるみ「美波ちゃん、昨日のこれ見た？」

スマホの記事を見せる。人気カップルのダブル不倫のニュースが出ている。

美波　「あー、これね」

くるみ「このカップル憧れてたからショック」

美波、少し笑って、

美波　「みんな、見せてる部分なんて一部でしょ」

くるみ「まあ、そうだよねー」

くるみ、カフェラテを飲む。手首につけられた有名ブランドのブレスレットが光る。

美波、それを見て、

美波　「で、それが例のやつ？」

くるみ「そう、凌ちゃんからのプレゼント。本当、最高の彼氏」

くるみ、わざとらしく、ブレスレットを触る。

美波、真顔でしつようにカフェラテをかき混ぜる。

その後、笑顔になって、

美波　「順調なんだ？」

くるみ「クリスマスは、凌ちゃん家に挨拶も行くよ」

美波、驚いて、

美波　「えっ？　実家ってこと？」

くるみ「そう。鹿児島」

美波　「遠いね」

くるみ「全然いい。指輪も買ってくれるって」

美波　「指輪？」

くるみ、わざとらしく、

くるみ「あっ、これ秘密だった」

美波、ひきつったような笑顔で、

美波　「なにそれー」

くるみ「凌ちゃんが、まだ誰にも言わないでおこうって」

美波　「婚約ってこと？」

くるみ「そうかな？　若いお嫁さんっていいよね」

くるみ、勝ち誇ったような笑顔。

美波、笑顔だが、服を強く掴んでいる。

3.　美波の家・玄関・外（夜）

美波、鍵を開け、入っていく。

センサーで電気がつき、男物の靴があるのを確認する。小綺麗な革靴だが、脱ぎっ放しの状態。

4.　美波の家・室内（夜）

美波が部屋に入ってくる。

大橋凌（２４）、くつろいだ様子でスマホをいじっている。

美波　「凌、来るなら言ってよ」

凌　「俺、出入り自由でしょ？」

と、鍵を振ってみせる。

美波　「勝手に取ったくせに」

凌　「取り返さないくせに」

美波、不機嫌そうに溜息をつく。

凌　「どうした？　今日、機嫌悪い？」

凌、隣に座れという合図をする。

隣に座る美波。

凌、美波の肩を抱き寄せて、
凌　「何かあった？」
美波、凌の顔をジッと見てから、
美波　「親に紹介して、指輪もあげるんでしょ？」
凌　「は？」
美波　「今日、聞いた」
凌　「あいつ……」
美波、凌から体を離して、
美波　「良かったね。おめでとう」
凌　「違うって。美波も知ってんじゃん。あいつのメンヘラ」
美波、黙って、凌の顔を見つめる。
凌　「別れ話したら、絶対別れないって、包丁出してきた」
美波　「そんなの、脅しでしょ？」
凌　「まじで刺す目してたから」
美波　「……」
凌　「美波、俺のことせめるの？」
と、あざとく、悲しそうな顔をする。
美波、溜息をついて、
美波　「言わされたってこと？」
凌　「あいつ、まじで面倒くせーんだよ」
と、大袈裟な声を出す。
凌　「美波と先に出会ってたら、良かったわ」
と、美波に甘える。
凌の頭を撫でる美波。
凌　「やっぱ、美波のが落ち着く」
美波、何も言わず、笑顔で返す。
凌、部屋を暗くし、美波の首筋にキスする。
美波、されるがまま。凌は美波を少しずつ脱がして
いく。
美波　「私が計画立てていい？」
凌　「ん？　ああ……」
と、美波の言葉を気にする様子はなく、続けていく。
薄暗い中、凌のスマホが光る。
美波、殺気立った形相で凌のスマホを見つめる。

5.

大学・カフェテリア（昼）

美波、一人で座っている。

くるみからメッセージが届く。

「買ってもらった」の文字と一緒に、ブレスレットと同じブランドの指輪の写真が送られてくる。

それを見て、こらえるように笑う美波。

6.

大衆居酒屋・店内（夜）

騒がしい店内。店員がサンタの帽子をかぶっている。

メリークリスマスという乾杯の声が聞こえてくる。

美波、友人数人と食事をしている。

美波のスマホに着信が入る。

店外へ出るため、移動しながら電話に出る。

美波　「もしもし」

くるみの声「美波？」

美波　「どうした？」

くるみの声「（泣き声）凌ちゃんに……れた」

美波　「え？」

周りの声にくるみの声がかき消される。

美波　「ちょっと待って」

美波、外へ出る。

美波「ごめん。周りがうるさくて」

くるみの声「凌ちゃんにフラれた」

電話口から激しい嗚咽が聞こえる。

美波の口角が上がる。

それを隠すように、心配した声で、

美波　「え……どういうこと？」

くるみの声「美波、今から家来れる？」

美波、友人たちの方を気にするように見てから、

美波　「あとで、行くね」

7.

くるみの家・室内（夜）

可愛らしいインテリアの中に、高級ブランドのバッ

グがいくつも置かれている。部屋の隅には、キャリーバッグが、準備途中の状態で置かれている。
部屋の真ん中で泣いているくるみ。その隣に美波。
くるみの指には、指輪がはめられている。
くるみ「今朝、凌ちゃんが荷物取りに帰って……そのあと、一緒に行く予定だったのに」
美波、何も言わず頷く。
くるみ「そうしたら、さっき電話かかって来て……」
言葉につまるくるみ。
美波、優しく声をかける。
美波「ゆっくりでいいよ」
くるみ「やっぱり無理って……」
美波「急に？」
くるみ「もう別れるから、実家には一人で行くって」
くるみ、号泣する。
美波「そんな……」
と、美波も悲しそうな表情をする。
くるみ「そのあと、何回電話しても繋がらない」
美波「……」
くるみ「凌ちゃん家にも行ったけど、いなかった。どうしたら、いいの？」
涙でぐしゃぐしゃになった顔で美波を見つめる。
美波、困ったような表情。
美波「連絡は、一旦しない方がいいかも……」
くるみ、声を荒げて、
くるみ「なんで？　こんな何も分からない状態つらい」
美波「そうだけど……こういう時、時間あけた方がいいって聞くし」
くるみ、美波の話を聞いていない様子で、
くるみ「ねえ、美波が電話してみてくれない？」
美波「えっ」
と、たじろぐ美波。
くるみ「お願い」
美波「番号知らな――」

美波、くるみに腕を掴まれる。

くるみ「教えるから。知らない番号なら、出てくれるかも」

美波　「くるみ、ちょっと待って。落ち着こ」

くるみ「なんで？　1回かけるだけでいいよ」

美波　「警戒してるなら、出ないんじゃないかな……」

　　くるみ、パニックになったように、

くるみ「1回だけっていってるじゃん」

　　驚く美波。

くるみ「お願い。凌ちゃんと話したいの」

　　美波、くるみを見つめる。

美波　「……分かった」

　　くるみ、美波の答えを聞いてすぐに、

くるみ「０８０……」

　　と、番号を読み上げる。

　　美波、慌ててスマホを取り出し、番号を押す。

　　通話を押した瞬間に大橋凌という名前が表示される。

　　表示を隠すようにすぐに耳にあてる。

　　コール音が聞こえる。

くるみ「スピーカーにして」

　　美波、言われた通りに恐る恐る操作する。

　　部屋に響くコール音。

　　長いコール音のあと、留守番電話の音声が流れる。

　　美波、大きく息を吐き出す。

美波　「出ないね……」

　　くるみ、再び泣き出す。

8.　くるみのマンション前の道（早朝）

朝日が美波を照らす。

美波、くるみのマンションの方を振り返ってから、

歩き出す。

こらえられない様子で、大声で笑い出す。

美波の笑い声が誰もいない道に響きわたる。

（つづく）